◆経済倶楽部講演会第４５１７回（11月15日）

なぜ日本は先端半導体に取り組むべきなのか

経済同友会経済安全保障委員会委員長、Ｃｄｏｔｓ合同会社・共同創業者　小柴満信

＊半導体は手段である
＊地政学３人のビジョン
＊テクノポラーな世界
＊官民連携はＡＩ、量子、バイオ
＊ビットの生産性とは
＊日本再生のキーは量子技術
＊２０２９年に世界は変わる
＊日本の経済密度の高さは有利
＊注目の量子生物学

山縣　それでは開会いたします。（拍手）

講師をご紹介いたします。本日は小柴満信様にお越しいただきました。日本合成ゴムで、社長、会長、名誉会長をお務めになって、現在は経済同友会で経済安全保障委員会の委員長をなさっておられます。それから、シンクタンクのＣｄｏｔｓ合同会社の共同創業者でもあられます。２０２３年からは今、非常に話題になっておりますラピダスの社外取締役も務めていらっしゃいます。東洋経済から『２０４０年半導体の未来』という本をお書きになっておりますので、講演後にご興味のある方はぜひご覧になっていただきたいと思います。

それでは小柴先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

半導体は手段である

小柴　皆さんこんにちは。

こんな歴史のあるところで講演させていただけるとは、ちょっとびっくりしました。石橋湛山先生に関する本は、船橋洋一さんが書かれた本があって、私はたまたまそれを読んでいたので、こういった機会に講演させていただけるのは非常にありがたいと思います。

私は今回初めて本を書きましたが、自分の人生で本を書くなんて思ってもみなかったんです。今回、東洋経済の方々にいろいろご支援いただいて何とか完成しました。経済同友会では、私は先端技術の委員会から国際関係まで、６～７年やってきたんですけれども、その間にいろい